学園だより

学校法人安城学園
法人本部理事長室 発行
平成２２年 特別号

第１２回 安城学園報告討論会

日　　時：平成２２年６月１９日(土)　９：００～１３：０５

場　　所：岡崎城西高等学校

テ ー マ：「教育にイノベーションを」～誰でも無限の可能性を持っている～

もし講演の時間が１分しかなかったら、配布資料の表紙に書いてある「教育にイノベーションを」そして「誰でも無限の可能性を持っている」ということを話しますが、今日の時間は３０分ありますので、レジュメに沿って話していきます。

今、私立学校は特に大学・短大で本当に厳しい状況です。実際に募集は競争が激しく厳しい状況ですが、それよりも社会から「私立学校とは何なのか？」「私立学校と公立学校とではどう違うのですか？」ということを問われていることが、実は厳しい状況なのです。これは言い換えると「あなたの学校は建学の精神に基づいて教育をしていますか？」ということです。現場の先生に訊くと「私たちと公立とは全然違う」という答えが返ってきますが、そうではなくて、外部の人が見た時に「あなたの学校はどこがどう違うのか？」ということに答えられているかということです。今年度から公立の高等学校は実質的に無償化になりましたので、高等学校の方も同じように問われるようになると思います。

そのような中、子どもの数は減少傾向であるということで、平成１３年頃から学校規模の適正化を図るため、定員を学園全体で６，２００名にしました。幼稚園が８００名、高等学校が３，０００名、岡崎学舎が１，２００名、豊田学舎が１，２００名でしたが、途中からは岡崎学舎が１，４００名に、豊田学舎が１，０００名にしました。現状をしっかり押さえる事は重要で、その６，２００名という定員に対して、実績は５，４００名しかいないということが現状です。

教職員の皆さんは本当に努力をされております。しかし努力は組織の内部にしかありません。「いい教育をしよう」と頑張ることは大事なことです。「建学の精神に基づいた教育をしよう」とするのは当然のことです。しかしこれらを評価するのは組織の外部しかありません。

次の資料をご覧ください（図１）。このグラフは国の財政を表しています。税収は約３７兆円ぐらいですが、歳出は９０兆円を超えています。このところ税収に対して歳出が多い状態がずっと続いています。

同じようなことを今度は学校法人の場合に置き換えてみると、６，２００名の目標を達成するための努力が支出に、成果としての５，４００名の実績が収入

国の税収と歳出

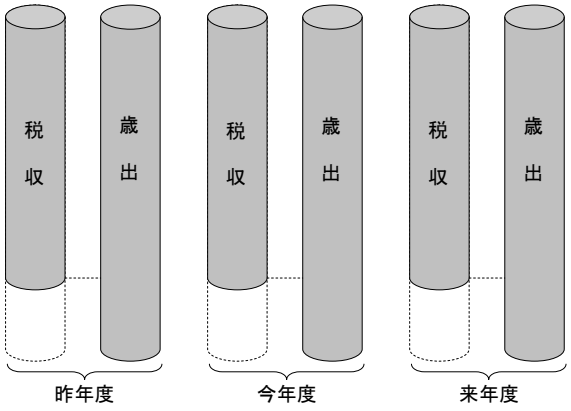

図１　国の税収と歳出

に対応いたします。普通は今年度の収入に対して今年度の支出、来年度の収入に対して来年度の支出を考えますが、この対となる時間をずらして、昨年度の支出に対して今年度の収入、今年度の支出に対して来年度の収入ということを考えてみます（図２）。

私たちの努力と私たちの成果

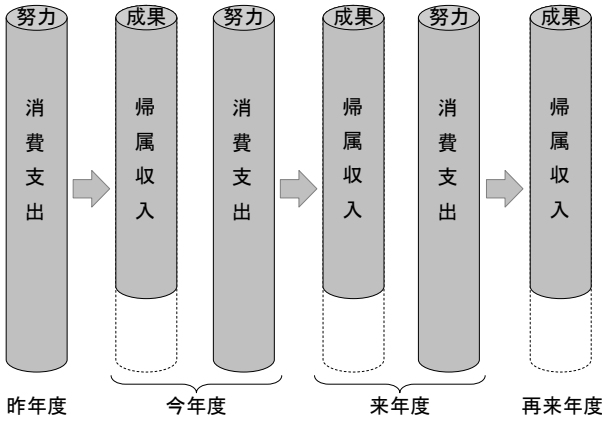

図２　私たちの努力と私たちの成果

事業計画というのは、いつ、誰が、何をする、これだけのお金を何に使うのだというものです。そうすると、消費支出というのは実は努力の大きさを表していることになります。それに対して、帰属収入は成果の大きさを表していると理解できます。今、私たちが抱えている課題は、学園全体を見た時に、努力をしているがそれに見合った成果が出ていないということです。

さて、ここ１０年間、デフレ経済が進んでいるというのが次の資料です（表１）。これは、保護者の皆さんのいわゆる教育に対する負担が上がっているのではないかという例です。資料を見ると、どの所得ランクに関わらず、１９９８年の時点から所得が平均で約１０％落ちています。新聞記事の方は、所得

格差の拡大や雇用の不安が物価の下落を後押ししていることを示しています。

表１　勤労世帯主の年間収入推移《抜粋》

（10分位階層別）

所得ランク	1998年度	2008年度	98年度比
第Ⅰ 10分位	280.8万円	216.4万円	77.1%
第Ⅱ 10分位	374.5万円	302.6万円	80.8%
第Ⅲ 10分位	424.6万円	329.6万円	77.6%
第Ⅳ 10分位	477.5万円	389.0万円	81.5%
第Ⅴ 10分位	534.2万円	450.0万円	84.2%
第Ⅵ 10分位	590.8万円	489.9万円	82.9%
第Ⅶ 10分位	642.2万円	526.4万円	82.0%
第Ⅷ 10分位	717.6万円	616.7万円	85.9%
第Ⅸ 10分位	798.2万円	718.8万円	90.0%
第Ⅹ 10分位	921.0万円	866.6万円	94.1%
平均	576.1万円	490.6万円	85.1%

【資料】総務省「家計調査年報」各年度版より

先ほど話したように、これからますます「私立学校とは何ですか？」「どこがどう違うのですか？」ということが問われてきます。このような情勢で、私たちはどうも努力をしているにもかかわらず、それに見合った成果が出ていない。本学園には優秀な方が集まっております。それならば、あとは共通の目標にどれだけこだわって、全員で力を合わせて取り組むかがポイントだろうと考えています。そこで学園全体の共通の目標をもう一度確認します。

共通の目標はマーケティングとイノベーションの観点から２つあり、両方とも大事です。一つは「建学の精神に基づいた教育を実現すること」です。それは「私たちが社会のニーズを作り出すことに本当に成功しているのだろうか？」という問いかけであります。もう一つは「目標である６，２００名集めること」です。これは「私たちが社会のニーズに対応することに本当に成功しているだろうか？」ということです。

では、建学の精神に基づいた教育とは何かというのが、次の図です（図３）。従来の学校教育の目的は、基礎学力と専門知識・技術をしっかり身に付ける事でした。そして私立学校ではこれらに建学の精神を加えた３点セットで教育を進めてきました。しかし、変化がビルトインされている社会においては、基礎学力と専門知識・技術を身に付けていても、それだけでは役に立たず、問題解決ができない。では何か足りないのかというと、それは行動特性です。前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力といった社会人基礎力という行動特性を加えた４点セットの教育が必要であるということです。

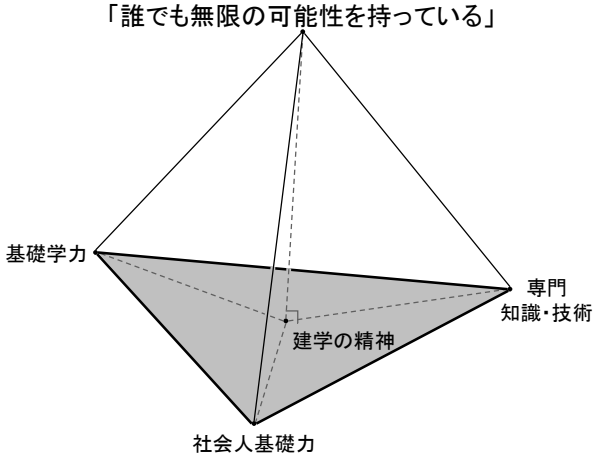

図３　誰でも無限の可能性を持っている

さて、本学園における建学の精神は「誰でも無限の可能性を持っている」なので、建学の精神に基づいた教育というのは「目の前の子どもたちが無限の可能性を持っているという信念で教育ができること」です。しかしこれは私たち側からの見方です。社会に対しては、安城学園に入れば、卒業した時に本人が「私は無限の可能性を持っているのだ」と実感し、自分だけでなく友達に対しても「誰でも無限の可能性を持っている」と思えることです。これは財産として生涯学習の基礎になり、社会に出て困難に直面した時にきっと役に立つと考えています。英語や国語のような正規の科目は、公立でも私立でも同じようなことを教えていますが、「私はその無限の可能性を持っている」ということを教えているのは安城学園だけです。

現在、義務教育段階についてはＰＩＳＡ（国際学習到達度調査）が行われ、教育の世界にもグローバリゼーションの流れが着々と進んでいます。大学でもＰＩＳＡの大学版が検討されています。そして、大人版としてもＰＩＡＡＣ（国際成人力調査）が進んでいるとのことです。だから、今は建学の精神を核にした教育のイノベーションをやはり興さないとなかなか厳しい社会であり、逆にそういう気概を持

って臨むことにより、目の前の困難を克服することができるのではないかと思っております。

寺部だいの教育信条の本質は「男に生まれようと、女に生まれようと、誰でも無限の可能性を持っている」ことで、創立当時「女の人には教育を受ける学校がなかったからその潜在能力を開発できなかった」ということが原点です。現在では大学でも５０％以上の進学率で入学してきますが、「誰でも無限の可能性を持っている」という信念を実証することが大事で、これが建学の精神に基づいた教育の基本になると思います。そして、行動特性を育てること、鍛えることが大事です。教育の軸を変えていかないとイノベーションは興らないのではないかと思います。

ところで、自分たちの行っている教育は果たして募集のエンジンになりえているでしょうか。逆の言うと募集のエンジンになりうる教育を創造するためには、やはり教育にイノベーションが必要ではなかろうかと考えます。たとえ子どもたちに対して教えたとしても、学生さん、生徒さんが学んでいなければ、やはり教えたことにはなりません。だから、教える専門家から育てる専門家に変身する必要があります。そして、このことによってイノベーションを興そうと思います。

最後に、もう一度皆さんに本当に検証していただきたい事は、建学の精神がセールスポイントになっていて学生・生徒諸君が果たして来ているのだろうかということです。これにこだわらないと、私立学校ではありません。もしセールスポイントになっていなければ、やはりこれは危機的であります。では、建学の精神をセールスポイントするにはどうすればよいのかということを問題提起にいたしまして、これで終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございます。